

# 歩き方で個人認証

## 阪大、不審者監視に応用へ

大阪大学の八木康史教授らは、一人ひとりの歩き方から九〇%の精度で個人認証できる技術を開発した。体つきの違いや手の振り方などで歩き方に個人差がでることを突き止めた。防犯カメラと組み合わせて、不審者を監視するシステムを三―五年以内に実用化を目指す。

歩行姿勢を正面と斜めなど少なくとも二方向からカメラ撮影し、あらかじめ登録済みの歩き方と照合し本人かどうか判定する。赤外線カメラで撮った

映像から人のシルエット(影絵)を切り出し、頭の上と動、足の運びなどの微妙な変化を解析したところ個人差が取り出せることが分かった。カメラから二十―三十センチ離れていても個人認証できるため、例えばオフィスの広い範囲でも監視できる利点がある。社内

係者の歩き方を登録し、記録にない歩き方を見つけたら部外者と判断する使用方を想定している。体の微妙な個人差から本人かどうかを識別する生体認証技術は、指紋や

手のひらの静脈、目の虹彩、顔かたちなどがすでに実用化されている。ただ、どれも専用装置に体を近づける必要があり、使い勝手は必ずしもよくない。